

平成25年度 林野公共事業の事業評価(事前及び完了後の評価) に係る技術検討会 議事概要

1 日時

平成26年2月19日 13:30～16:00

2 会場

関東森林管理局 5階中会議室

3 出席者

技術検討会委員 谷本丈夫委員長、梅田修史委員、葛城奈海委員、
執印康裕委員、淵上勇次郎委員

関東森林管理局 森林整備部長、計画保全部長、計画課長、
治山課長、設計指導官、国有林治山係長、
森林整備課長、森林整備課課長補佐、
企画調整課課長、監査官、監査係長

4 議事概要

○事前評価全般について

(委員) 事前評価におけるチェックリストについて、今回3地区が評価対象となっているが、優先配慮事項の評価結果が各地区横並びのように見える。各地区によって特色が出て来ても感じる。各便益項目にしても、各地区の特色に応じてどの便益を重視して評価するのか判りにくい。それぞれ重視する便益と重視する優先配慮事項についてメリハリをつけて説明すると国民にもわかり易いのではと感じる。

(関東局) チェックリストの優先配慮事項については、それぞれの地区に応じて個別に評価を行っており、結果として同じ評価になったところ。なお、評価個表の記載ぶりについては、対象地区それぞれの特色、期待されている機能などについて、よりわかり易くなるよう工夫したい。

(委員) 一般会計化に伴い、事業評価の手法に変更はないのか。一般会計化により水源涵養や国土保全、快適環境の形成などの公益的機能をより重視する流れとなり、公益的機能の発揮のために森林整備を行い、その中で利用できぬ木材は利用していくという考え方になったと認識している。重視する便益、チェックリストなどは現状の考え方に合うよう改訂しているのか。

(関東局) 全体としての事業評価の手法については、ご意見があったことを林野庁に報告する。

(委員) 森林整備と路網整備はそれぞれ連携する形で計画されているのか。

(関東局) 森林整備と路網整備は連携して進める計画となっている。幹線となる林道については、森林整備の計画を見越して早い段階で事業を進める形となっており、森林作業道などについては森林整備と平行して効率的に作設しているところ。

(委員) 今回の事業実施箇所について、民有林の事業との連携は図られているか。

(関東局) 民有林側と施業地の情報交換を行い、効率的な森林整備について検討するなど民有連携に取り組んでいるところ。

○完了後の評価 整理番号1 鳥・碓氷地区について

(委員) 丸太残存型枠の堰堤が良い。このような工法は今後も取り入れられるのか。

(関東局) 公共事業において木材利用推進が進められており、他省庁でも木材を積極的に利用するよう取り組んでいる。

(委員) 一般的に人工林では本数管理をしたとしても、また5、6年もすれば過密となってしまう。森林整備は構造物とは違ってこれで完了したとはなかなか言い切れない部分があるので、周りの構造物と森林が一体となって効果を発揮するには、今後も継続的な森林整備が必要と考える。

(関東局) 今後も森林の状況を確認するとともに、必要な森林整備については実施していきたいと考える。

○完了後の評価 整理番号2 丹沢地区について

(委員) 下流のダムへの土砂流出が軽減されたとあるが、可能であれば流出土砂量のデータを整理しておく方が良いと考える。また、ニホンジカによる下層植生の影響がある地域とのことなので、ニホンジカ対策についても今後の課題としてあるのではないか。

(関東局) ご意見を評価結果に反映したい。

○評価対象案件について

(委員) 今回評価対象となっている事前評価3件、完了後の評価2件について、提示された評価案で妥当と考える。今後の事業実施にあたっては、本日出された意見等に留意の上、事業の効果を最大限に発揮できるよう努められたい。